

2025年日本における国際博覧会（大阪開催）の誘致について

21世紀以降の国際博覧会は、地球的規模の課題に対し、世界からの知恵を一同に集め、様々な創造活動を共に体験し、刺激を受け、考え、発見することで、課題解決方策を提言する場であり、その重要性はますます高まっている。

今後、超高齢社会の到来は世界的規模での課題となる可能性がある。

関西は、ライフサイエンス分野において世界をリードする大学、企業、研究機関が集積しており、高齢化社会がもたらす課題解決に向けた人類の健康・医療の発展に大きく貢献する発見と成果が生み出されてきた。

そこで、世界の主要な都市圏の中で、最も早く人口減少・超高齢社会に直面する大阪・関西において、2025年（平成37年）に、「人類の健康・長寿への挑戦」をテーマとした国際博覧会を開催することは、大きな意義があり、現在、夢洲を中心とした大阪湾ベイエリア地区を会場候補地として、検討を進めているところである。

国際博覧会を「関西」で開催することは、広域連合が提唱する国土の双眼構造の構築及び目指すべき関西の将来像「アジアのハブ機能を担う新首都・関西」「個性や強みを活かし地域全体が発展する関西」の実現にも大きく寄与するものである。また、日本の歴史・文化の原点である関西の素晴らしさを世界の人々に理解してもらう絶好の機会となり、関西全域に新たな観光や産業のイノベーションが期待できるなど、大きな経済効果をもたらすとともに、関西の知名度向上にも大きく貢献するものと考えられる。

関西広域連合としては、国際博覧会開催の意義に賛同するものであり、国際博覧会の誘致・実現に向け、大阪府市や関西経済界とともに、国や関係機関等に対する働きかけを積極的に行っていくこととする。

平成28年9月22日

関西広域連合

連合長	兵庫県知事	井戸 敏三
副連合長	和歌山県知事	仁坂 吉伸
委員	滋賀県知事	三日月大造
委員	京都府知事	山田 啓二
委員	大阪府知事	松井 一郎
委員	奈良県知事	荒井 正吾
委員	鳥取県知事	平井 伸治
委員	徳島県知事	飯泉 嘉門
委員	京都市長	門川 大作
委員	大阪市長	吉村 洋文
委員	堺市長	竹山 修身
委員	神戸市長	久元 喜造